

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272500786		
法人名	社会福祉法人楽晴会		
事業所名	グループホームはるが丘		
所在地 (電話番号)	〒033-0071 青森県上北郡六戸町犬落瀬字堀切沢59-54 (電話) 0176-50-2162		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月15日	評価確定日	平成21年12月29日

【情報提供票より】(平成21年9月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 10月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 ~ 21,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(9月23日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1		要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢 平均	84.8 歳	最低	77 歳
		最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山医院(内科)、福田眼科(眼科)、聖心会病院(精神科)
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同敷地内の隣接施設も含め、自然に囲まれたのどかな雰囲気、立地条件の一角に位置し、建物も全体的に木目調の柔らかく優しい雰囲気となっている。また、地域住民との関わりも深く、隣接施設の機能と併せ、地域の高齢者福祉に様々な形で貢献がなされている。利用者との関わりについても、利用者一人ひとりの力を引き出す支援が十分になされており、管理者を中心とし、事業所の全職員が元気で明るく、利用者との笑い声が響き渡る楽しさが印象的なグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者を含め全職員での話し合いが持たれ、事業所として改善すべきと判断、結論が出されたものにつき、改善を図る取組みがなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を含め全職員での話し合いが持たれ、自己評価で見出された課題については、外部評価の内容・結果を踏まえ、改善を図る準備がなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	日々のサービス状況等の報告や双方向的な話し合いがなされ、会議の参加メンバーから出された意見を真摯に受け止め、サービスの向上に活かせるよう努めているが、おおむね2ヶ月に1回程度の定期的な開催には至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時や広報誌、個別の便りを通し、何でも言い出せる雰囲気作りに努め、家族からの意見・苦情を出しやすいような働きかけが積極的になされている。また、家族から出された意見・苦情については、全職員で話し合いの機会を設け、改善を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接施設と併せ、積極的な交流がなされている。また、管理者はキャラバンメイトになっており、地域の認知症研修等の講師を務め、地域の認知症の普及活動にも貢献している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた趣旨のもと、事業所独自の理念がつけあげられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に必ず説明をし、日々のミーティングやカンファレンスの機会にて実践に向けての話し合いを密にし、サービスの提供場面に活かされるよう努めている。		
も					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣接施設と併せ、隣近所、地域住民との交流が積極的になされている。管理者はキャラバンメイトになっており、地域の認知症研修等の講師を務め、認知症の普及活動に貢献している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で話し合い、自己評価として取り組んでおり、外部評価の結果についても、改善すべきと判断、結論が出されたものにつき具体的な改善に向けての取組みがなされている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>日々のサービス状況等の報告や双方向的な話し合いがなされているが、定期的な開催には至っていない。</p>		<p>運営推進会議の意義については十分理解されている為、今後はおおむね2ヶ月に1回ペースの定期的な開催がなされることに期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日々のサービスにおける課題発生時や事業所の運営にあたっての随時の相談は積極的に行われており、その他、運営推進会議以外の会議、懇親会等も開催され、十分な連携が図られている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員を対象に権利擁護に関する内部の勉強会、話し合いが行われ、必要な利用者に活用できるよう取組みがなされている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員を対象に虐待防止に関する内部の勉強会、話し合いが行われており、虐待防止・遵守に向けた取組みがなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書について、丁寧に時間を掛けて説明し、利用者、家族の納得が得られるよう努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、利用者の健康状態や日々の暮らしぶりについて必ず報告するようにしており、その他、事業所便りや個々に応じた報告を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時を中心に何でも言い出せる雰囲気作りに努めており、出された意見については、ミーティング等にて話し合い改善を図っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の代表者並びに管理者は職員の異動による弊害を十分理解しており、法人の人材育成の方針により、定期的な異動はあるも必要最小限に抑える努力がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として職員育成の為に段階的な計画書があり、内部の研修は年間計画に基づき行われ、外部の研修に参加した場合は、ミーティング等を通じ、内容の伝達に努めている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の事業所の見学や相互研修会を行い、事例発表等の機会を通じ、意見交換を図る取り組みがなされている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が事前に利用者宅に出向き、顔なじみとなり、安心してもらったうえで、利用してもらえよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中において、利用者本人の思いに共感し理解するよう努めている。また、利用者の生活歴を考慮した個別の役割を尊重し、お互いが協働しながら和やかに生活できるよう場面作りや声掛けがなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>重度の認知症の利用者が多い状況であるが、家族や関係者から情報を得たり、常に本人の視点に立って真意を測るよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の意向をもとに全職員で話し合い、利用者本意の介護計画が作成されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は随時見直しされており、利用者、家族の意向が取り入れられ、最新の情報や利用者の現状に即した介護計画の見直しがなされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者、家族の満足度が高まるよう、通院、外出支援等、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者本人と家族が希望するかかりつけ医となっており、医療機関の受診も柔軟に対応している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者本人、家族の意向を随時確認し、関係者全員で方針を共有している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>内部の勉強会やミーティングにて全職員への周知徹底を図っている。また、利用者に対しての日々の関わりにおいても常に振り返り考える機会とし、利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調やその日、その時の本人の気持ちを尊重した個別性のある支援に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と一緒に畑から採った野菜を使って調理したり、盛り付けや後片付けが一緒に行われている。また、食事も利用者と同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事出来るような雰囲気作りもなされている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日、入浴の長さ、回数について利用者一人ひとりの希望に合わせ柔軟に行われている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者個々の得意分野において一人ひとりの力が発揮出来るよう、それぞれの役割事を頼み、感謝の言葉が伝えられている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や利用者の体調、要望を考慮したうえで、季節を肌で感じ、心身の活性につながるよう日常的に近隣の散歩、買物等の支援がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、職員が自覚していない身体拘束が行われていないか等の点検がなされている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず、自由に出入り出来るよう努めている。利用者が外出しそうな気配を感じた場合は、さりげなく声掛けし、行動を共にする等の安全面にも配慮がなされている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域住民の協力のもと、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の災害対策訓練が定期的になされている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立の作成と適宜の水分補給に努め、必要に応じて摂取量のチェックをしている。また隣接施設の栄養士からも専門的な助言がなされている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを整備し、内容について全職員に周知している。また、インフルエンザについても利用者、職員共に予防接種を受けており、ペーパータオルの使用等、日々の予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は全てリラックス出来る雰囲気となっており、利用者が集まって日向ぼっこしたり、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫がなされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、利用者それぞれの使い慣れた生活用品が持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮されている。</p>		

 は、重点項目。